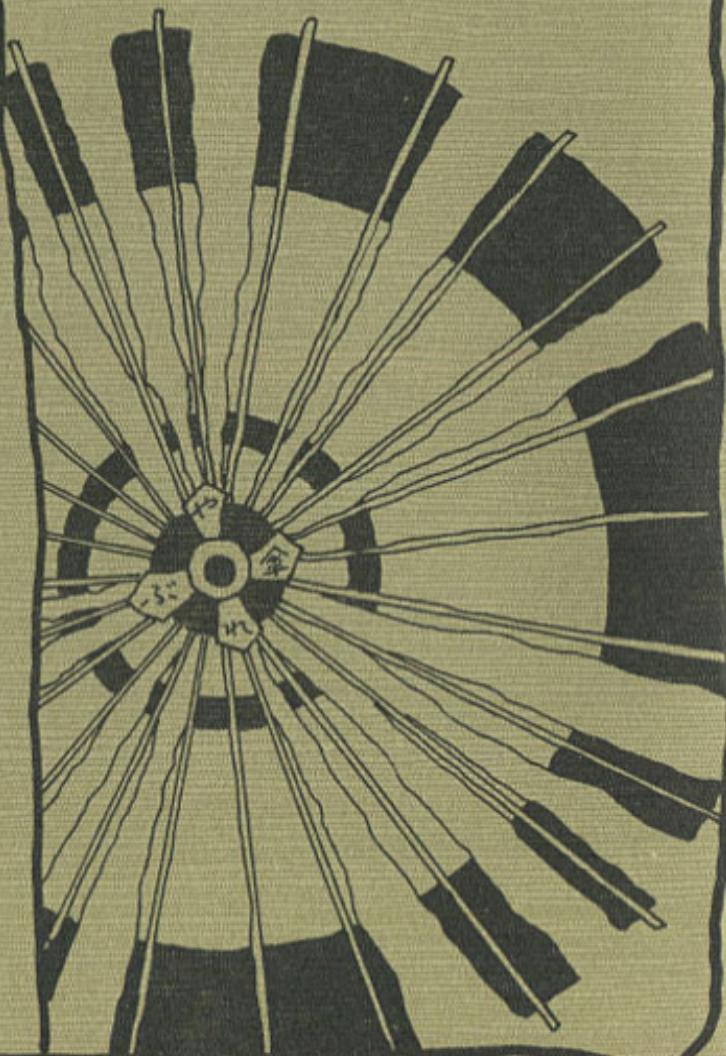


# やぶれ傘



八十六号

二〇一五年十月

夜の秋の泡のぼりつぐハイボール

根橋 宏次

ひと歩き臭木の花の下にくる

大島英昭

水溜まり小さくなりて秋の蝶

きくちきみえ

蟬時雨ガラスの壁に水流れ

丑久保 黙

沿線の案山子電車に向いて立つ

廣瀬雅男

秋の風白い絵のある白い皿

藤井美晴

金魚鉢へとビー玉を沈めけり

瀬島酒望

シーサーに八月十五日の雨

青谷小枝

芋虫のだらりと鳥に銜へられ

小山陽子

円窓の向かうに池や昼の虫

安藤久美子

稻びかり川の流れのしづかなる

白石正躬

虎尾草の尾を次々になでてゆく

菊池洋子

山の影さしかかりたり稻の花

渡邊孝彦

びちやびちやと猫が水飲むばつたんこ

有賀昌子

野良仕事終へて飴玉鱗雲

久世孝雄

## 抄選句集紀傘大崎れぶや

やませ来る浜に揚げ舟二つ三つ

秋山信行

間引き菜の笊いつばいを御浸しに

國保八江

蟻の道払ひて座るベンチかな

松村光典

竹林の風を背に受け墓洗ふ

貫井照子

テントより首だして見る天の川

野口希代志

こんにやくの黒き斑点村祭り

萩原渥人

夏帽子手を挙げて来る交差点

廣瀬 浩

朝霧に汽笛重なるハロン湾

山本久枝

布着の輪島の椀や新豆腐

奥田温子

夕焼けて乾ききつたる外流し

上林富子

包丁のすばらしく切れ秋早

菊地葉子

湿布剥すやびりびりと秋の暮

忽那みさ子

夏の月熟して山に落ちにけり

小巻若菜

コスモスに埋もれし標無人駅

鈴木昌子

芋虫  
胃もたれを抱へて歩く溽暑か  
夕暮れの都心の方に雲の終  
雜貨屋によき匂ひある秋初  
芋虫のだらりと鳥に衝へら  
燕帰る巣はそのままに車庫の壁  
冷凍のパンのパキッと折れて  
秋祭り果てて道には髪飾り  
秒針の光る位置あり秋灯籠  
名月の昼本の貢にチヨコの染み

小山陽子

竹 煮 草

安藤久美子

隧道道につづく隧道竹煮草  
 草畠れて抹茶小豆のかき氷  
 空き缶と空き壺並ぶ残暑かな  
 水引や湖にさざなみ岸に舟  
 円窓の向かうに池や昼の虫  
 下り築近くに魚焼く茶店  
 おむすびの海苔のぱりりと秋海棠  
 秋めきて抹茶の泡のきめ細か  
 山の湯に硫黄の匂ひ茸飯か  
 コスモスのまだまだ揺れて日が沈む

黒豆の花  
送り火を絶やすず墓へ戻しけり  
船の音消して灯籠流しかな  
稻びかり川の流れのしづかなる  
秋草と土手の斜面に吹かれをり  
水榦の小枝をおとし芋嵐  
登り来て昼におにぎり松虫草  
黒豆の花はむらさき屈み見る  
草の露ふんで小犬と野良まはり  
川風はかるく稻穂をゆらしけり  
水澄むや川面に映る雲の影

白石正躬

## 虎尾草

菊池洋子

包丁のにつちもさつちも栗南瓜  
 秋草の一輪挿して山の宿  
 山小屋のソーラーレシスデム朝曇  
 とまりたる草ごと吹かれ赤とんぼ  
 浮いてゐし井戸の西瓜のずつしりと  
 酔の匂ひさせて一品胡瓜もみ  
 秋暑しつぎのバス待つ二十分  
 片陰を歩く図書館までの道  
 虎尾草の尾を次々になでてゆく  
 動くともうごかざるとも金龜子

稻の花 渡邊老  
陸橋の下は坂道夏木立  
さるすべり手摺の白き磴の道  
湿原の水落つる音塩蜻蛉  
坪庭に雨後の日差しや秋簾  
街灯がぽつんぽつんと秋の宿  
山の影さしかかりたり稻の花  
ビル工事音のとほのく竹の春  
用済みの卒塔婆秋日にさらされて  
木豇豆の実の垂れさがりみたりけり  
外灯の照らす縁石虫の秋

渡邊孝彥

ばつたんこ

有賀昌子

渓流に木洩れ日 摆るる青胡桃  
 昼下がりのピアノ連弾小鳥来る  
 かなかなや腰牽引にうとうとす  
 ころころと猫のころがす櫟の実  
 あつけなく沈む夕日や獺祭忌  
 花つきの朝の胡瓜を挽ぎにけり  
 檜にボール挟まつたまま秋獵入  
 ぴちやぴちやと猫が水飲むばつたんこ  
 まんじゅしやげ腕にひとつ注射痕  
 秋高しラップで握る塩むすび

鰯 雲

久世 孝雄

野 脳 内 を 空 つ ぱ に し て 草 を 引 く  
 良 会 の 討 論 耳 に 昼 寝 か な  
 仕 廚 房 へ 引 き た る 清 水 父 の 郷  
 事 わ り ば し の 足 の ふ ら つ く 茄 子 の 牛  
 終 研 ひ ま は り の 実 に な る を 待 つ 敗 戦 日  
 へ 風 の 来 て 影 摆 れ て を り 赤 と ん ぼ  
 行 稔 田 の と な り 稔 田 畦 を 行 く  
 餅 浮 島 や 水 面 に 映 ゆ る 曼 珠 沙 華

天 羽 波 青 烟 山 片  
 守 州 頭 田 や 寺 蔭 や  
 跡 路 白 風 吹 来 車 に 水 に  
 の 大 や 風 吹 来 車 に 水 に  
 き 碇 白 風 吹 来 車 に 水 に  
 石 や 跡 白 風 吹 来 車 に 水 に  
 や 赤 跡 白 風 吹 来 車 に 水 に  
 蝙 蜒 跡 白 風 吹 来 車 に 水 に  
 の 子 跡 白 風 吹 来 車 に 水 に  
 湾 堂

や ま せ

高居

國保八江

古火鉢父の飼ひたる目高居て  
ぱつたりと友と会ひけり花火の夜  
大粒の葡萄ひと房お供へに  
頭上より火の粉振り来る大花火  
身をかたく歯医者の椅子に蟬の声  
すつと来てすつと去りけり鬼やんま  
子の墓に秋の七草供へけり  
間引き菜の旅いつぱいを御浸しに  
棚経の僧そそくさと経を読む  
鶏頭の赤のいささか鏽びゐたる

銀杏の枝に来ても秋雨降りやまづ  
セルビアに枝にたわわや八月尽  
バス停にひまはり二輪頭垂れ  
秋空をすこし覗かせ降りしきる  
線香をすこし覗ける間も蚊に刺さる  
蟻の道払ひて座るベントチかな  
すいか割り四方八方砂割られ  
昼前にひと雨ありて蟬しぐれ  
水遣れば虹が立つなりわが庭に  
落ち蟬に語りかけたき終戦日  
蟻の道

松村光典

竹を裏名大子石  
林さ木物瑠等橋  
な戸璃のの  
の児の  
風もにの声亀  
を工蟬厄声庭は  
背プの除をに緋  
口む  
にンくだ間真鯉  
受かろん近白に  
けけやにき首  
墓て蟬ご舟補の  
墓盆時時下虫ば  
洗饅頭雨鳥り網す  
ふ頭雨鳥り網す

貫井照子

酒か一新寺足曲  
少ま合涼のも屋  
きのや子との  
々りの泡のを  
塩の米た声庭  
逃炊つ一枚を  
少げきふと余  
々るありさ  
のにありき  
羽がの織さ  
零を力を  
余使夜チ秋夜百  
ひの彼の日  
子けの  
飯り秋ノ岸秋草  
和子

中島和子

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	3日(火)	AM 9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	3日(火)	PM 6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	4日(水)	PM 7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	6日(金)	AM 10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM 6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	21日(土)	PM 2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM 2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM 10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
12月	1日(火)	AM 9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	1日(火)	PM 6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	4日(金)	AM 10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM 6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保勲
	7日(月)	PM 7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保勲
	19日(土)	PM 2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM 10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保勲
	26日(土)	AM 10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM 2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月20日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR上野駅公園口改札口。吟行地は上野動物園。句会場は滝野川会館(古河庭園の斜向かい)。

◎連絡先　瀬島孟　☎ 048-862-2757　藤井美晴　☎ 0422-55-2733  
 大島英昭　☎ 048-592-5041　WEP編集室　☎ 03-5368-1870  
 廣瀬雅男　☎ 048-443-7522　浦和コミセン　☎ 048-887-6565  
 丑久保勲　☎ 048-853-3856　WEP俳句教室　WEP編集室へ